



Ideas & Chemistry

2016.5.13

2015年度決算説明会資料



東洋紡株式会社

決算のポイント

15年度実績

- 営業利益は前年比12%増の231億円、当期純利益は25%増の101億円
- 液晶・国内自動車関連は苦戦も、フィルム新設備・新製品関連費用が減少
- コスモサインSRFは、大手偏光板メーカーへ本格販売開始
- エンプラやエアバッグなどで海外展開も進む

16年度予想

コスモサインSRFの拡大、エアバッグや医薬などの増益を見込むも、事業環境の不透明感を踏まえ、営業利益は250億円を予想

	14年度				14年度累計	15年度				15年度累計	直近見通し (2016/2)
	上期	3Q	4Q	下期		上期	3Q	4Q	下期		
売上高	1,723	831	959	1,790	3,513	1,797	782	899	1,681	3,478	3,650
営業利益	90	35	81	115	206	105	50	76	126	231	230
当期純利益	26	33	22	55	81	54	22	26	48	101	115

※”当期純利益”=親会社株主に帰属する当期純利益

I . 2015年度決算概況

(1) 決算概要 ① PL・CF

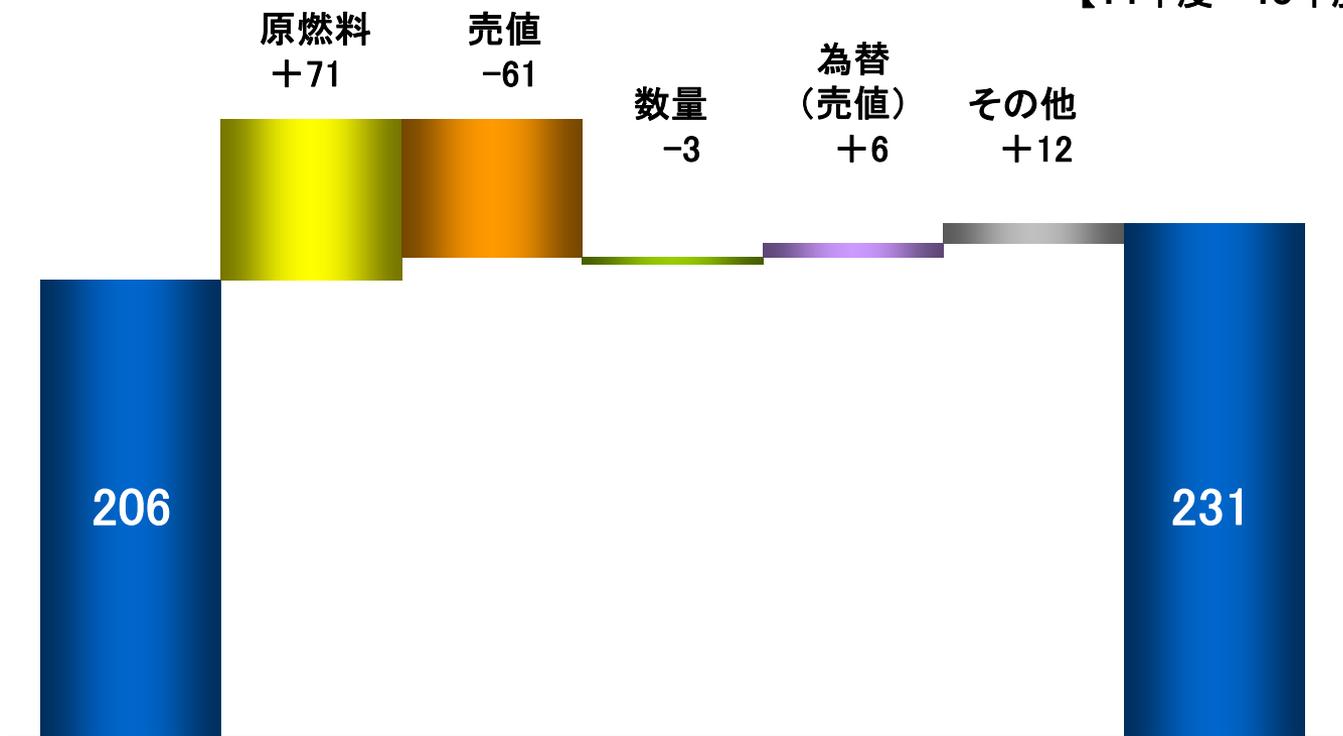
当期純利益は9年ぶりに100億円超、営業CFは323億円
(億円)

	14年度	15年度			増減		直近見通し (2016/2)
		上期	下期		金額	%	
売上高	3,513	1,797	1,681	3,478	-35	-1.0%	3,650
営業利益	206	105	126	231	+25	+12.4%	230
(営業利益率)	5.9%	5.8%	7.5%	6.6%	-	-	6.3%
経常利益	163	97	107	204	+41	+25.4%	210
親会社株主に帰属 する当期純利益	81	54	48	101	+20	+25.0%	115
EPS(円)	9.14	6.04	5.39	11.43	-	-	
減価償却費	149	71	73	144	-5	-3.2%	
設備投資	175	73	100	173	-2	-0.9%	
営業CF	201	129	194	323	+122	+60.8%	
為替レート(円/US\$)	110	122	118	120			
国産ナフサ価格(千円/KL)	64	48	38	43			

※”当期純利益”=親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益増減要因分析

【14年度→15年度】



14年度

15年度 (億円)

	14			15		
	上	下		上	下	
円レート (¥/\$)	103	117	110	122	118	120
国産ナフサ (千円/kl)	71	57	64	48	38	43

② BS

	15/3末	16/3末	(億円) 増減
総資産	4,658	4,446	-212
棚卸資産	824	753	-70
純資産	1,611	1,601	-10
自己資本	1,580	1,569	-11
(利益剰余金)	325	395	+71
(為替換算調整勘定)	-75	-107	-33
(退職給付に係る調整累計額)	-16	-57	-41
非支配株主持分	31	32	+1
有利子負債	1,771	1,654	-117
D/E レシオ	1.12	1.05	

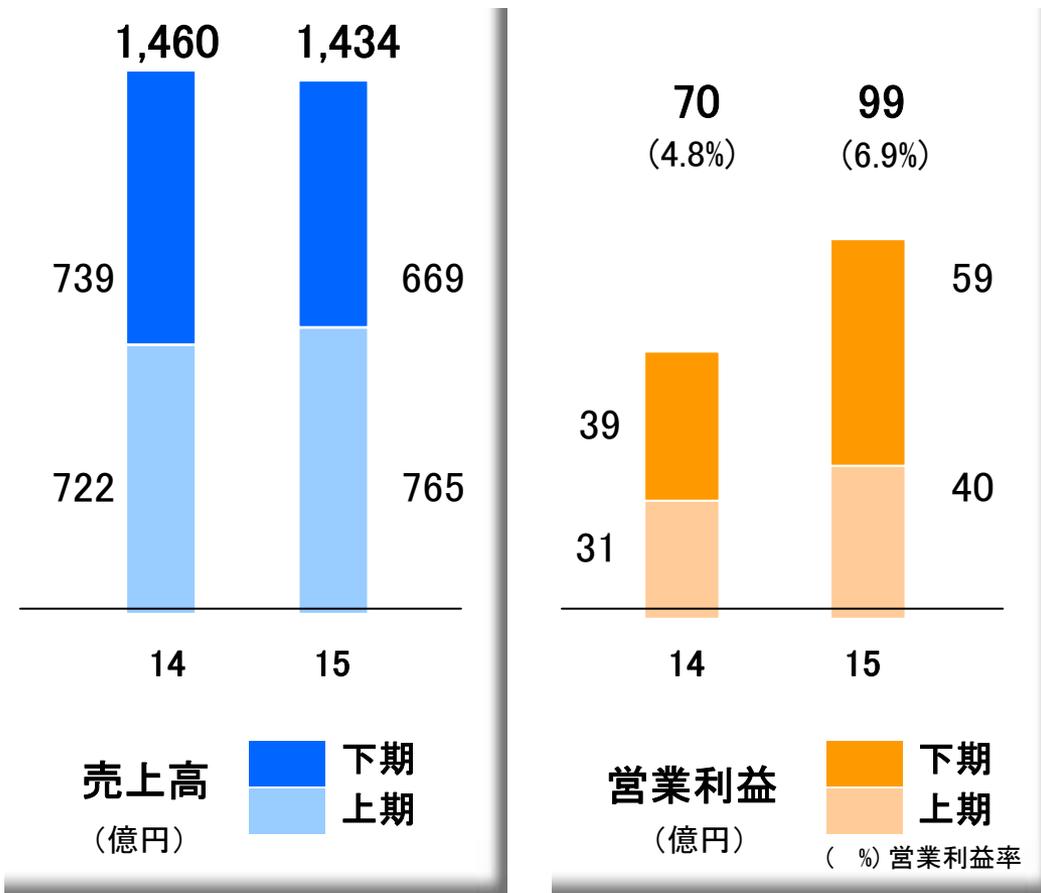
(2) セグメント別

(億円)

	売上高				営業利益				増減
	14年度	15年度		14年度	15年度				
		上期	下期		上期	下期			
フィルム・機能樹脂	1,460	765	669	1,434	70	40	59	99	+29
産業マテリアル	715	353	352	705	66	32	30	63	-3
ヘルスケア	288	135	143	277	50	21	26	47	-3
スペシャルティ計 (営業利益率)	2,463	1,253	1,163	2,416	186 7.6%	94 7.5%	115 9.9%	209 8.7%	+23
繊維・商事	851	438	416	855	23	12	13	25	+2
不動産・その他	199	105	101	206	26	15	14	28	+2
消去・全社	-	-	-	-	-30	-15	-17	-32	-1
合計	3,513	1,797	1,681	3,478	206	105	126	231	+25

① フィルム・機能樹脂

液晶・国内自動車関連は苦戦も、フィルム新設備・新製品関連費用の減少や、包装用フィルムの数量増により、増益



● 工業用フィルム

- ・液晶市場低迷も、SRFは大手偏光板メーカーへ本格販売開始

● 包装用フィルム

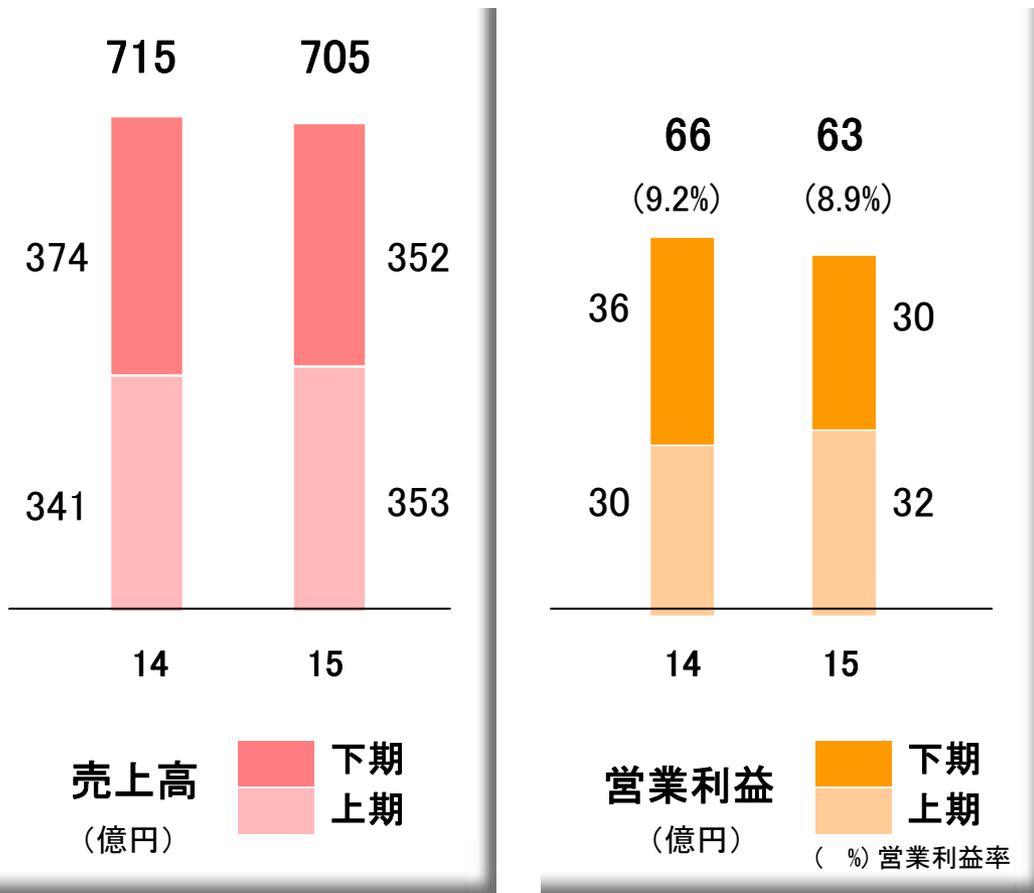
- ・インバウンド需要増、新設備本格稼働で数量増

● 機能樹脂

- ・エンプラは、国内自動車向け数量減も、海外が好調
- ・”バイロン”は、塗料やIT・電子関連で苦戦

② 産業マテリアル

生活・産業資材や機能フィルターが堅調に推移したものの、エアバッグ用基布の費用先行などで、減益



● エアバッグ用基布

- ・国内・アジア市場で数量減
- ・海外拠点整備で費用先行

● スーパー繊維

- ・"イザナス"は釣糸低調
- ・"ザイロン"が耐熱用途で好調

● 機能フィルター

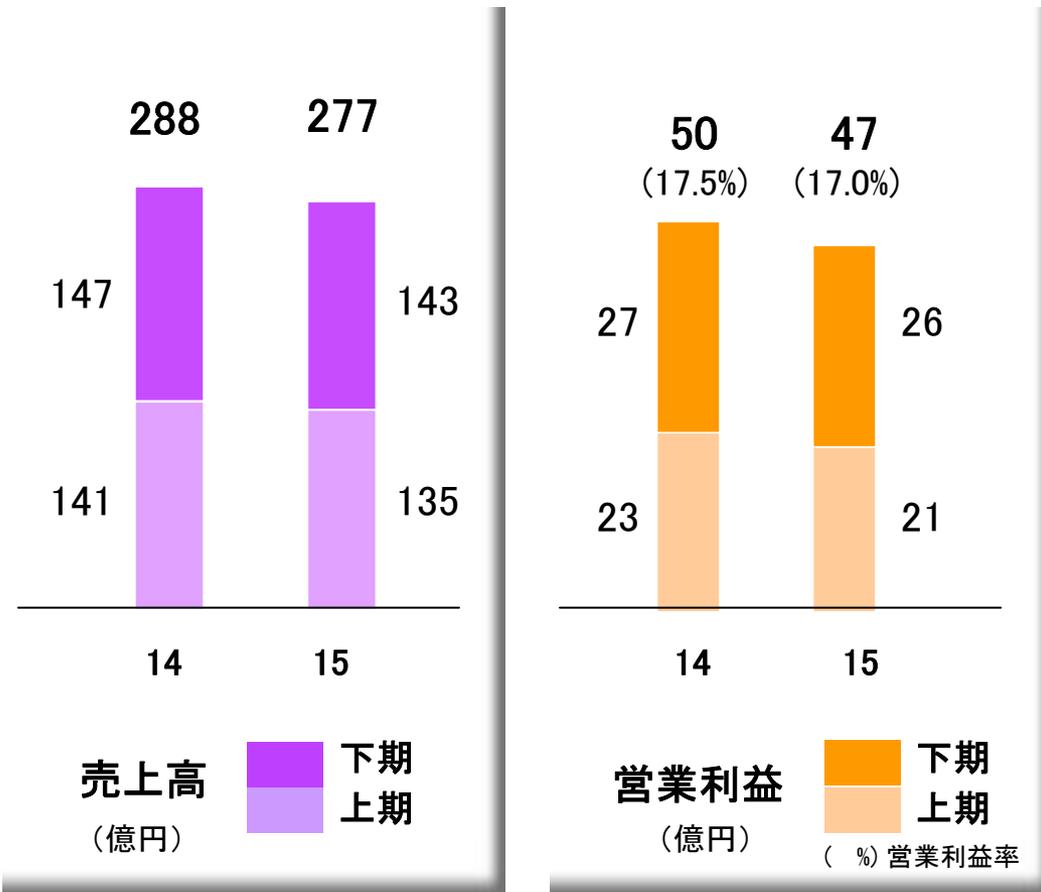
- ・家電やエネルギー用途は伸び悩み
- ・アジア向けVOC回収装置が堅調

● 生活・産業資材

- ・スパンボンドは自動車用途で健闘
- ・衛材用途のポリエステル短繊維が好調

③ ヘルスケア

ライフサイエンス用試薬、診断薬用酵素が堅調に推移するも、
医薬受託案件延期で、減収減益



● バイオ

・ライフサイエンス用試薬、診断薬用酵素は堅調も、診断システムが苦戦

● 医薬

・受託案件延期の影響あり

● 医療機器

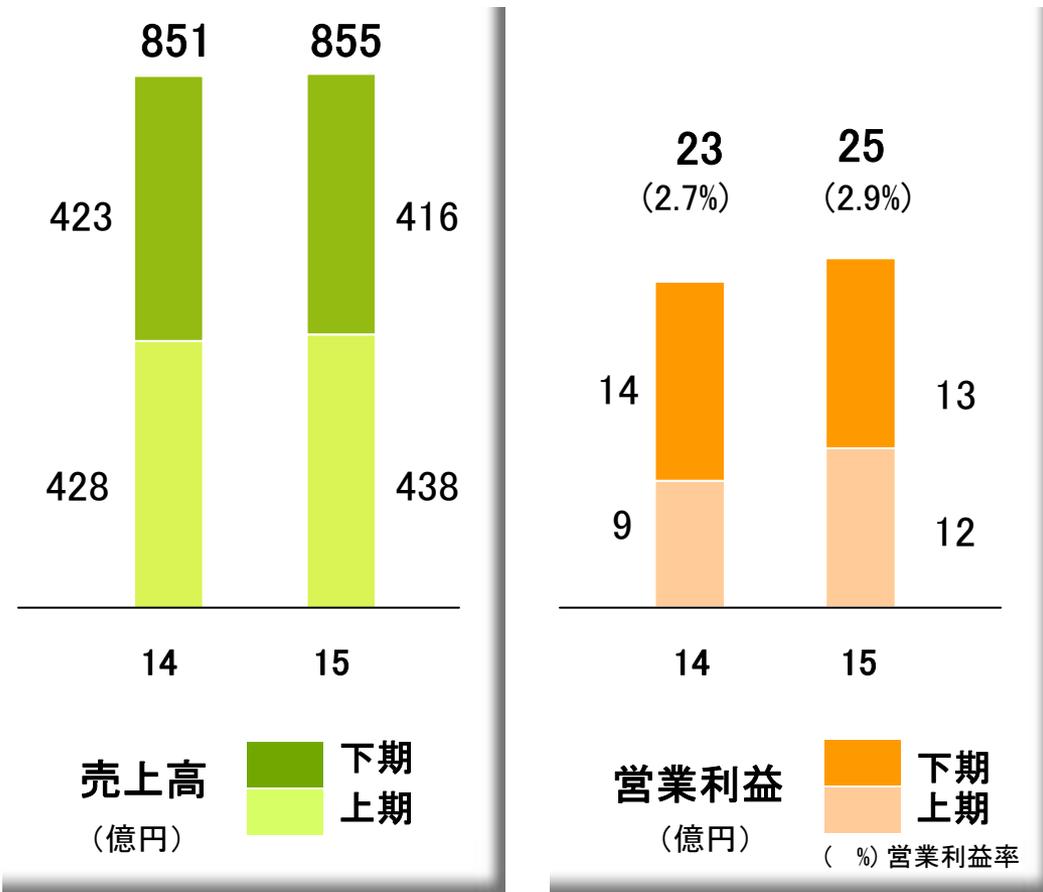
・ナーブリッジは国内販売体制再構築に注力

● 機能膜

・アクア膜(RO膜)は、国内外で交換需要堅調

④ 繊維・商事

アクリル繊維は苦戦も、中東向けテキスタイルが堅調に
推移し、増収増益



- 東洋紡STC(繊維)
 - ・中東向けトーブ、好調継続
- 海外関係会社
 - ・南米で景気減速の影響あり
- アクリル繊維
 - ・中国での市況悪化の影響を受け
苦戦

Ⅱ. 2016年度業績予想

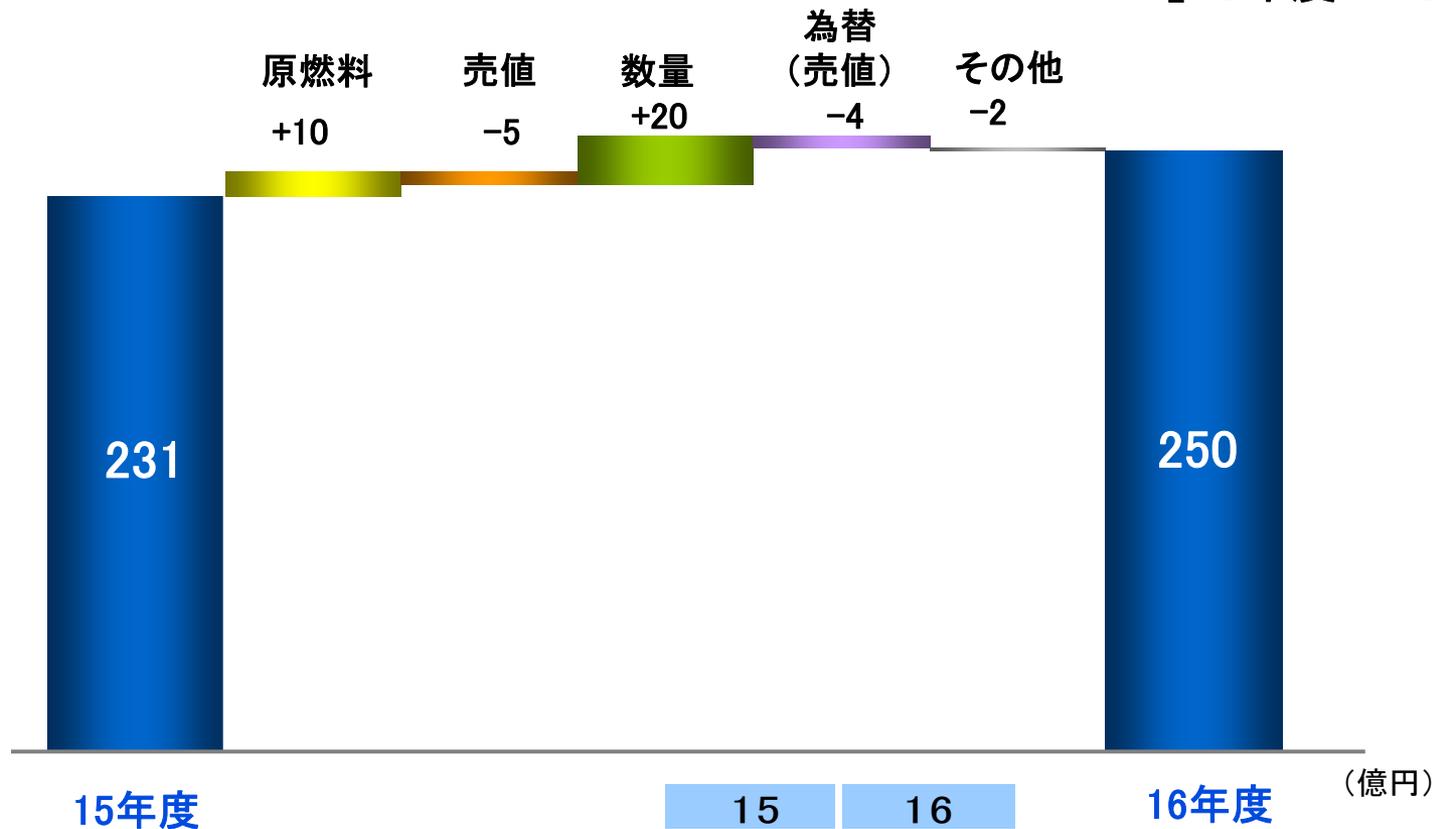
(1) 業績予想

(億円)

	15年度実績	16年度予想	増 減	
			金額	%
売上高	3,478	3,600	+122	+3.5%
営業利益	231	250	+19	+8.1%
(営業利益率)	6.6%	6.9%	-	-
経常利益	204	230	+26	+12.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	101	130	+29	+28.1%
EPS(円)	11.43	14.64	-	-
減価償却費	144	150	+6	-
設備投資	173	180	+7	-
為替レート(円/US\$)	120	115		
国産ナフサ価格(千円/KL)	43	43		

営業利益増減要因予想

【15年度→16年度】



	15	16
円レート (¥/\$)	120	115
国産ナフサ (千円/kl)	43	43

(2) セグメント別予想

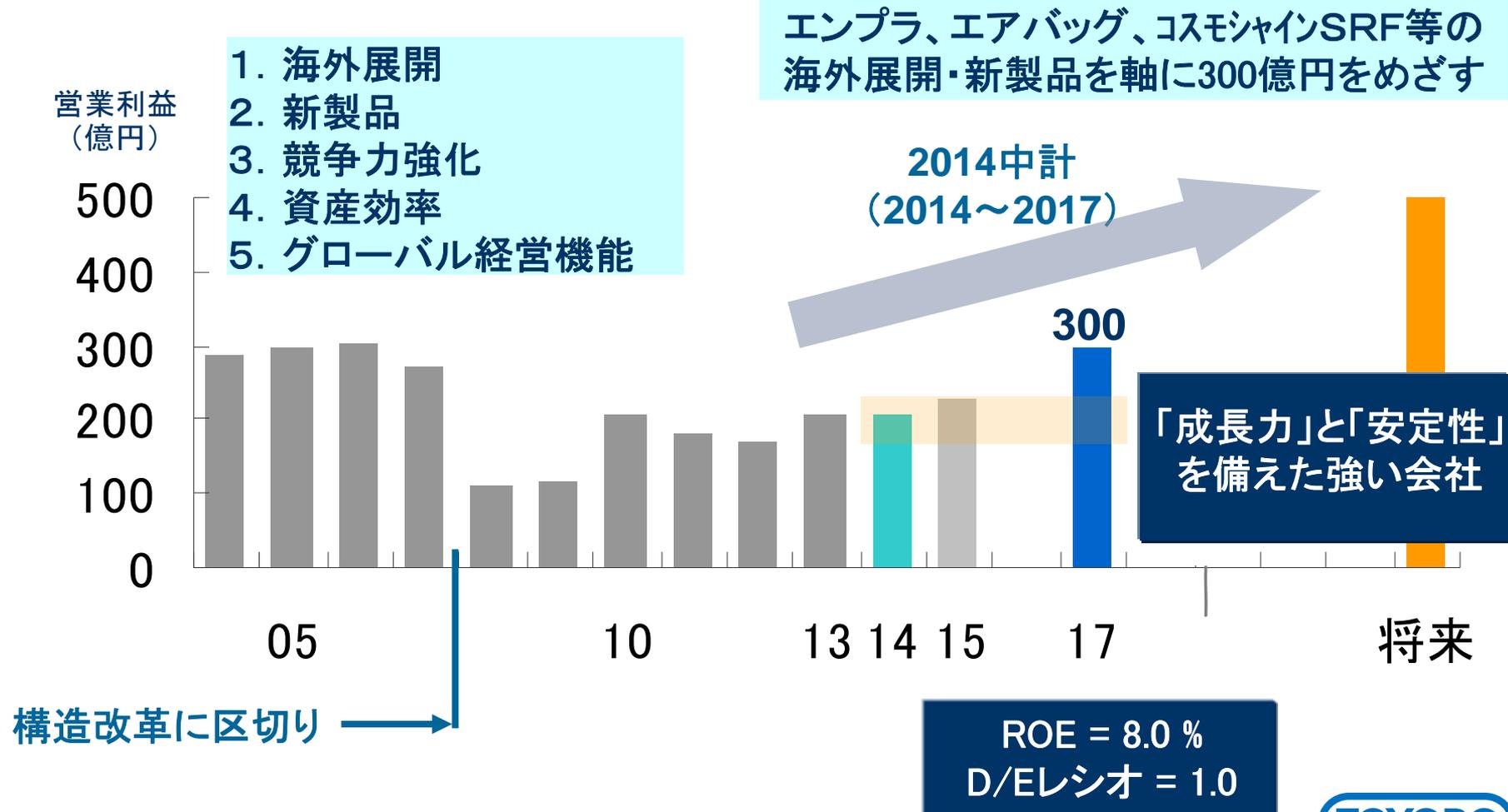
(億円)

	売上高		営業利益		増減
	15年度	16年度	15年度	16年度	
フィルム・機能樹脂	1,434	1,464	99	115	+16
産業マテリアル	705	755	63	69	+6
ヘルスケア	277	317	47	52	+5
スペシャルティ計 (営業利益率)	2,416	2,536	209 8.7%	236 9.3%	+27
繊維・商事	855	857	25	18	-7
不動産・その他	206	207	28	28	+0
消去・全社	-	-	-32	-32	+0
合計	3,478	3,600	231	250	+19

Ⅲ. 2014年中計進捗

2014中計の位置付け

将来のめざす姿（売上高5,000億円・営業利益500億円）への成長軌道に乗せるための中計



アクションプラン、重点拡大分野の進捗

1. 海外展開加速

- エンプラ海外売上拡大
13年度比で37%増
(中国、米国、タイ)
メキシコ販売拠点も稼働



- エアバッグ基布海外拠点整備
(タイ、中国、米国)
PHP系による認証、海外メーカーへ展開
中計後半での拡大に向け、
拠点整備



- 診断薬酵素の生産能力増強
新興国における需要増に対応
拡販活動強化



2. 新製品の拡大・創出

- 超複屈折ポリエステルフィルム
“コスモシャイン SRF”
- 熱収縮フィルム
“スペーススクリーン” New Type
- 神経再生誘導チューブ
“ナーブリッジ”



【重点拡大分野】

研究開発費
13年度比 7.6%増

- 再生誘導材料
 - 骨再生誘導材 歯科口腔外科領域で治験進捗
- フィルム海外展開
 - 高機能包装用フィルム
- 分離膜
 - RO膜+ FO膜(正浸透膜)



進捗状況(新製品)

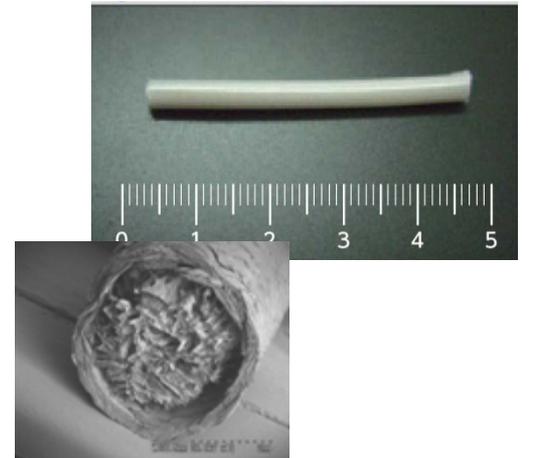
“コスモシャイン SRF”

- 液晶偏光子の保護フィルム用途を中心に展開
- 強み
 - ・ 価格競争力
 - ・ 設備改造なく、使用可能
 - ・ 低透湿性＋ハンドリング性
- 韓国と台湾の2社に加えて、大手1社へ本格販売開始
- 16年度売上げ予想、17年度計画



“ナーブリッジ”

- 国内初の神経再生誘導チューブとして展開
- 特長
 - ・ 適用可能長は世界最長(5cm) ⇔米国品 2cm
 - ・ 材料は体内吸収されて消失
- 使用施設数、適用症例数は順調に増加
- 国内販売体制の再構築
- 米国展開 FDA認証取得から販売パートナー確保へ



利益配分に関する基本方針

- 株主さまへの利益還元は、企業にとって最重要事項の一つと認識
- 安定的な配当の継続を基本としつつ、利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを総合的に勘案し、総還元性向^(※)30%を目安として、自己株式の取得を含めた株主還元を行っていく
- 当期の期末配当金は、1株当たり3円50銭とさせていただく予定
- 次期の配当金については、現時点では1株当たり3円50銭を見込むも、上記の方針を踏まえ、今後検討させていただく

(※) 総還元性向 = (配当総額 + 自社株買い総額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益

「めざす姿」の実現に向けて



(渋沢栄一揮毫／東洋紡総合研究所会議室扁額)

■ 「敬事而信」

事を敬(つつし)んで信あり

■ やることをよく考えて決め、

決めたことは実行して「やり遂げる」

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

補 足

訴訟関連

<概要>

- ① 03年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故:1件)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、
米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 事故を起こしたメーカー以外の防弾ベストに関しても、米国政府(司法省)が訴訟を提起

<解決済みの訴訟－いずれも和解による解決>

- ・購入者からの集団訴訟－2005年10月
- ・事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)－2006年から2007年
- ・ドイツ州政府からの訴訟－2009年2月
- ・防弾ベストメーカーからの訴訟－2011年7月(2件)および2012年3月

<訴訟状況>

(2016.5.12現在)

	クラスアクション	PL関連	政府関係		防弾ベストメーカー			政府関係
原告	購入者	警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ポイントブラック	ファーストチョイス	ドイツ州政府
状況	和解成立 (05年10月)	和解成立 (06～07年)	訴状受取後 動きなし	証拠開示 手続済	和解成立 (11年2月)	和解成立 (11年7月)	和解成立 (12年3月)	和解成立 (09年2月)
件数	10件	4件	1件	2件	1件	1件	1件	1件